

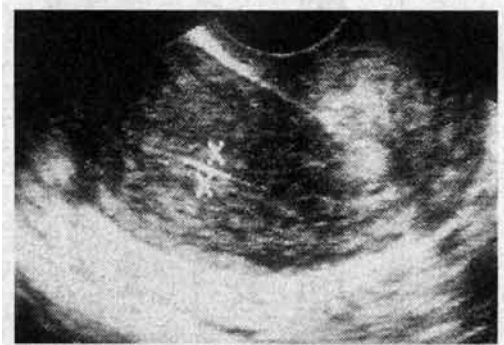


発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

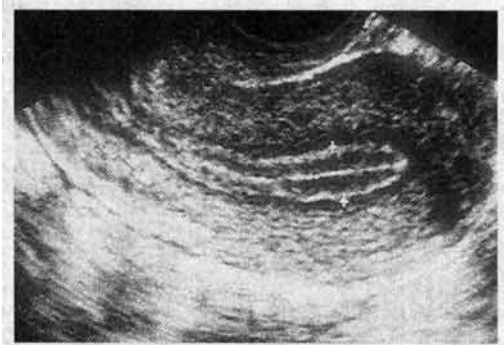
治療を続けても子宝に恵まれない不妊症の女性に対する針きゅう治療が、妊娠率を飛躍的に向上させる効果のあることが名古屋市瑞穂区、明生鍼灸院（鈴木裕明院長）と愛知県豊田市、竹内病院トヨタ不妊センター（越知正憲所長）の共同研究で分かった。不妊症への針きゅう効果を、まとめた症例数による科学的データで検証した研究は初めて。来年六月、茨城県で開かれる全日本鍼灸学会学術大会で発表される。

不妊症治療に針きゅう効果

研究は、結婚後五年、不妊専門医療機関で二年治療しても妊娠しない不妊患者で、体外受精など高度な生殖医療を三回以上受けても妊娠できず、子宮の内膜が薄いことが原因と推定される五十七人（平均年齢三四・七歳）を対象。患者たちに針きゅう治療を半年以上続けたところ、三十一人の内膜が厚さ六ミリ以上など妊娠への一定基準に改善。うち十四人（同三三・七歳）が、冷凍保存した自分の胚（はい）を移植して妊娠することができた。



約半年の針きゅう治療で厚みを増した子宮内膜。上が治療前下が治療後＝1998年、超音波を使って断面撮影（竹内病院提供）



子宮内膜改善 57人中14人が妊娠

妊症患者で、体外受精などが分からず、月経異常や頭痛、肩こりなど、健康に問題がないのに起こる不調（不定愁訴）がみられる患者二十四人（同三三・二歳）への針きゅう治療でも、七人（同三三・一歳）が妊娠した。針きゅう治療が子宮の血流を活性化させ内膜の改善に至った可能性があるほか、妊娠より先に不

愛知の2施設 共同研究で確認

定愁訴が治った例が八割もあつた。高度な生殖医療の妊娠率は20～30%。これを三回受けた後は妊娠率が著しく下がるとされる。流産を二度経験し、針きゅう治療で内膜が整い結婚六年目の今冬、出産した愛知県内の女性（匿名）は「排卵誘発剤などの連続使用で体調を崩し、身もメカニズム検証を東洋医学に詳しい丁宗鉄・東京大学医学部生体防御機能学講座助教授の話。高度な生殖医療と、体への負担が少ない針きゅう治療を組み合わせる

この有効性を裏付けて興味深い。今後は妊娠につながったメカニズムを詳しく検証し、針きゅうだけでなく漢方薬や養生法など東洋医学全般に視野を広げ、その効果を考察してほしい。